

伊丹市文化財ボランティアの会

火曜会通信

第76号

発行日：平成30年 2月 1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

平成30年を迎えて

会長 内田 襄

新年、あけましておめでとうございます。

昨年は、主催事業（会議、市民ガイド、有岡城跡清掃、研究発表、各分科会の活動など）や支援事業（ロマン体験学習支援、観光歩きガイド支援など）に皆様のご協力により無事に終えることが出来たこと、ありがとうございました。



今年、行基の生誕1350年を迎えるに当たり「行基の事績をたどる」動きがあります。伊丹にも多くのお客様が来られることが予想されます。皆様には、ご負担をかけることがあるかもしれませんが、よろしくご協力のほどを、お願いします。

今冬は、ことのほか寒さが厳しいようです。

十分に健康に留意され、事故のないように活動をお願いします。



7周目のスタート

松田 孝雄

今年の誕生日が来れば昭和21年にスタートした1周12年のサーキットを6周したことになる。サーキットを回る速度は歳をとるにつれ速くなる気がする。とりわけ平成22年、63歳で会社を卒業してから今日までの8年間、毎日が日曜日で退屈すると思いきや文化財ボランティア活動の他ロードバイクで六甲山登り、森林ボランティア、ウエートトレーニング等々、年金を頂いて好きな事三昧で忙しくやってきた。そして竜宮城の浦島太郎よろしく鯛や平目の舞踊りで8年の月日が経ってしまった。

あと1周すれば84歳、まだ先のことと思っているがますます早く近づいて来るだろう。さすがに今の生活ペースを保つことは無理でトーンダウンするだろう。もう1周すれば……いやこれはどうなるか分からない。多分途中でリタイアするかも……。



文化財ボランティア養成講座

第23回文化財ボランティア養成講座が、1月23日（火）から始まりました。5回の講座（詳細は6ページ今後の予定参照）の後、2回の準備会を経て3月17日（土）に市民ガイドを実施します。

伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・石橋家や郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。

市内の史跡・文化財のガイドについてのお問い合わせは、伊丹市社会教育課までお願いします。
(☎：072-784-8090)

伊丹ゆかりの

文人墨客の歌碑めぐり

伊丹は江戸時代に酒造業の発展と共に、俳諧文化が花開きました。

11月3日(祝)、歌碑めぐりに市民6名・会員



20名の計26名が参加しました。JR駅前カリオン下で集合し、伊丹郷町内に点在する歌碑

カリオン広場で挨拶

めぐりに出発です。歌碑めぐりの後は、柿衛文庫にて岡田館長より「伊丹ゆかりの文人・墨客について」の講演を聞くことができました。

当日は文化の日にふさわしく晴天。伊丹郷町内に点在する歌碑をめぐりました。その昔、私は万葉学者・犬養孝先生の歌碑めぐりに参加し、朗々と犬養節を朗詠された日を思い出しました。今回の歌碑めぐりは、室町時代の摂津守護細川氏の家臣・伊丹之親の歌から始まりました。



有岡城址の歌碑

は生き残るのは大変だと感じました。

墨染寺門前で、境内にある頼山陽の歌碑の説明を聞きました。山陽は39歳から酒を嗜むようになり、特に剣菱を好んだそうです。伊丹の酒を愛し、たびたび伊丹を訪れ「柿記」を残しています。また、阪神タイガースの球団歌「六甲おろし」の作詞家・佐藤惣之助は、旅の途中で上島鬼貫の墓

有岡城跡では、かつての城主である荒木村重と、妻たしの哀しき句の説明を聞き、戦国末期

に詣で、そばにあった鶏頭の花を手折って墓前に供えました。歌碑には、ほのかに暮れかかった秋の閑寂につつまれた情景と心情を綴った句が刻まれています。

「東の芭蕉、西の鬼貫」と称された、伊丹が生んだ俳諧師・上島鬼貫は、酒造家油屋の三男坊でした。鬼貫の詠んだ句は、墨染寺をはじめ、猪名野神社、鬼貫生家跡(現・三井住友銀行)等など、市内各所で見るすることができます。次の句は、鬼貫生家跡に建てられた一句です。

「によつぱりと 秋の空なる 富士の山」

句意は、鬼貫が仕官のため江戸へ下ることになった時、病床の友・古沢鸞動(らんどう)に「はつきりと富士の姿を見て知らせしてほしい」と頼まれました。しかし、帰郷した時にはすでに友は亡くなっていました。友の墓前にこの句を捧げて報告したということです。

又、赤穂浪士の大高源吾(俳号・子葉)は、吉良家討ち入りの前年に伊丹に来て、鬼貫を訪れています。

時間の都合で、回り切れない所もありましたが、十数か所の歌碑をめぐることができました。

歌碑めぐりは、柿衛文庫の館長・岡田麗氏による講演で締めくくられました。



岡田館長の講演

が出され、山陽はその美味さの虜になりました。講演の中で、この秋に実った見事な台柿を見せていただきました。毎年11月3日は、台柿を目と舌で愛でる「観柿会」が催されています。いにしえの文人・墨客と同じ感動を共有することができる日です。

の間に「台柿

(浮田 記)

次回の市民ガイドは3月21日(水 祝)を予定しています。

研修バス旅行

但馬國出石の散策



旅の楽しさはほとんど天候で決まります。その日の天気はかなり寒いものの、快晴。だが、日本海方面の天候は安心できません。

参加者 44 名が市役所前に集合し、バスは豊岡市へ向けて出発します。舞鶴道を通り、春日 IC から北近畿豊岡自動車道へ。車内では会長の挨拶の後、水曜班の吉岡さんが黒井城や出石城の解説をしてくれました。

最初の訪問地は豊岡市立歴史博物館。豊岡市内にはたくさんの遺跡があり、1250 年前この地に国府（現在の県庁）や国分寺があったことが明らかになったそうです。出土品の数々を見学した後、バスは一路、出石町へ向かいます。

出石に着くと、まず腹ごしらえ。出石といえば、皿そば。そのルーツは江戸時代のお国替えの際、信州からやって来たそば職人の技法を取り入れたのが始まりだとか。その後、出石焼の白い小皿に盛る独自のスタイルが広まってきました。

食欲を満たした後、街の散策に出発です。出石の町は城を中心に栄えた城下町です。室町時代に山名氏が築城した比隅山城から有子山城、出石城と、城と領主が変わる中、但馬の中心として栄えました。

小高い山から街を見下ろす出石城跡には隅櫓や登城門等が建てられ、昔の面影を残しています。江戸後期の上級武士の居宅「出石家老屋敷」、近畿最古の芝居小屋「永楽館」、日本最古

の時計台「辰鼓楼」、出石出身の洋画家「伊藤清水記念館」など、見どころがいっぱいです。参加者たちは思い思いに、歴史の足跡を体感していました。



出石家老屋敷

最後の訪問地は「豊岡市立コウノトリ文化館」。46 年前、野外で生息していたコウノトリがすべて死亡し、その後飼育されていた最後の 1 羽も亡くなり、日本のコウノトリは絶滅しました。その後、豊岡の地にコウノトリを再び羽ばたかせる事業が進められ、今では田んぼや湿地でもコウノトリが飛ぶ姿を見学できるようになりました。私たちが訪れた時、幸いにも飼育員がエサやりする時間でした。寒空の下、エサを求めて飛来する姿は悠然としていて、生命の力強さを感じさせてくれるのでした。



コウノトリの見学

帰りのバスではハーモニカ演奏やクイズの余興で盛り上がりました。

「みなさんの日頃の精進の賜物ですね」とバスガイドが言うほど、終日天候に恵まれ、快適な日帰り旅行となりました。

(金川 記)

第1回 阪急・阪神沿線観光あるき

伊丹郷町と長寿蔵をたずねる

10月28日(土)、台風22号接近にともない早朝から雨、まち歩きの開催が憂慮されました。悪天候にもかかわらず39名が参加され、予定通り実施されました。参加者をA・B二班に分け、少し強めの雨風の中、三軒寺前広場・猪名野神社・墨染寺・本泉寺・荒村寺・有岡城跡・みやのまえ文化の郷と巡りました。



三軒寺広場

参加者の皆さんは肩を濡らしつつも、熱心にガイドの説明を聞いて下さいました。



猪名野神社

猪名野神社では、先週末に関西に上陸した台風21号の暴風雨による被害がでており、境内の樹々数本が根こそぎ倒れていました。拝殿横の松の大木も倒れましたが、幸いにも拝殿の屋根は無事だったようです。

まち歩きも終盤、やっと屋根のある旧・岡田家住宅に着いた頃に、雨は小降りとなりました。私たちのガイドはここで終了し、参加者の皆さんは、白雪ブルワリービレッジ長寿蔵に向かわれました。長寿蔵二階にある酒蔵ミュージアムの自由見学と、白雪のショップ内でお酒の試飲を楽しめました。(藤原 記)

[町の小さな文化財 第15回]

加茂井の名残り 瀧地蔵



瀧地蔵の祠

猪名野神社から北へ向かう緑道が発音寺への登り道と交差する附近の下に瀧地蔵の祠がある。道路に張出した台座にコンクリートの大きな祠が座っている。祠は緑道より4~5m低い位置にある。

地域の有志で祀られ、参詣する人も多いようだ。昭和初期には花街勤めの女性の願掛け地蔵であったらしい。

何故“瀧地蔵”と呼ばれているのか。それはかつて緑道が水路であり、この附近で下に落とし込んで滝のように水が流れ落ちていたことに因む。水路は加茂井と呼ばれ、絹延橋上流の猪名川から取水して川西市加茂地区を経て伊丹郷町の耕作地を潤す灌漑用水路である。その後宅地化が進み、灌漑用水の役割は終わって水路は暗渠になり、現在の緑道が整備された。これより加茂井は神社西側の堀跡を流れる。かつて水路に架かる清水橋という石橋があり、今もバス停に「清水橋」がある。瀧地蔵とともに加茂井の名残りである。

(松田 記)

京の地名

池田 利男

京には読みにくい地名が多い。代表的なものを列記すると！！

- 不明門 (アケズ) 平等寺・因幡堂の正門は常に閉されていた。
- 化野(アダシノ) 念仏寺・葬地であった。
- 御室(オムロ) 仁和寺。
- 釜座(カマンザ) 堀川近く鑄物師が多く住んでいた。
- 雲母坂(キララ坂) 比叡山に通じる坂道。都から見ると雲が生じるようで。
- 御幸町(ゴコマチ) 天皇が通った道。秀吉が造ったといわれている。
- 神足(コウタリ) 神が降臨された処。
- 直違橋(スジカイバシ) 伏見城の門前橋。
- 鹿ヶ谷(シシガタニ) 平家打倒の僧・俊寛の在居。
- 太秦(ウズマサ) 秦氏の領地。タイシンは古代ローマ帝国の事。
- 帷子ノ辻(カタビラノツジ) 壇林皇后の葬儀の際、棺を覆った帷子の衣が落ちた処。
- 先斗町(ポントチョウ) ポントはポルトガル語で「先」の意味。
- 糺の森(タダスノモリ) 下賀茂神社の参道。みそぎの場所として知られている。
- 御陵(ミササギ) 天智天皇の山科御陵の地名。
- 壬生(ミブ) 新撰組の壬生の屯所があった。
- 柳の辻(ナギノ辻) 山科地方。神聖なる樹木柳の木があった。
- 納所(ノウソ) 伏見・淀の物資の荷揚げ倉庫
- 一口(イモ洗い) 今は無き巨椋池の西岸の地名。中世には芋洗いと言ったが三方が沼地で入り口が一方しかなかった。

サクラはどこから来た？

日本の春を代表する花、サクラは何処から来たのでしょうか。最近の研究では、日本のサクラの原種は、ネパールの標高1400～2000mあたりに自生しているヒマラヤザクラであることが定説になっています。ところが、このヒマラヤザクラは、11月頃開花し冬でも緑の葉を落としません。



カトマンズ(1400m)のヒマラヤザクラ(11月)

もともと秋咲きだったサクラがなぜ日本では春咲きになったのでしょうか。その理由はネパールと日本の気候の違いで説明されています。

ネパールの緯度は亜熱帯に属し、山岳地帯を除けば、1年を通して温度差は少なく、とても穏やかな気候です。これに対し日本は、1年の気温差が30度以上もあります。

温室育ちのネパールのサクラは中国、台湾、日本へと北上してゆく過程で厳しい気候を乗り越える手段として、冬場に葉を落として活動を止める「休眠」を獲得したと考えられます。ネパールにも標高3000m以上の山岳地帯には春咲きのサクラが2種類存在します。

日本にもジュウガツザクラやフユザクラのように秋咲きのサクラがあります。これらは日本のサクラの先祖がえりと考えられます。

ヒマラヤザクラは、現在日本各地に植えられています。大阪市立長居植物園にも数本あります。(山田 記)

平成30年新年会

1月17日(水)午前中の1月例会に引き続き恒例の新年会が催行されました。

内田会長の挨拶に続き、陣羽織を着用した池田顧問の音頭で乾杯し賑やかな宴が始まりました。



古文書グループの狂言「梟山伏」

芸達者な面々の余興を楽しんだ後、恒例のビンゴゲームで盛り上がり、今年の新年会も無事終了しました。今年の参加会員は29名でした。

(山田 記)

活動記録(11月～1月)

定例会

・11/14(火)・12/12(火)・1/17(水) 新年会

案内ガイド ・11/3(金) Aコース(市民ガイド文化財保護啓発事業)・11/5(日)岡田家(甲南大学西宮市)・11/7(火) Aコース(川西市シルバー人材センター東谷ブロック 川西市)・11/8(水)岡田家(NPO シニア自然大学校 大阪市)・11/10(金) Aコース(宝塚ココロクラブ 宝塚市)・11/15(水) Aコース(大阪府高齢者大学校 大阪府)・11/18(土) 岡田家(小松市商工会議所 小松市)・11/23(木) 岡田家(まちづくり推進課主催ウォーキング 伊丹市)・11/25(土) Aコース(オムロン同期会)・11/26(日) 岡田家(関西スーパー労

働組合 伊丹市)・11/28(火) Aコース(シニア自然大学校 11期 大阪市)・11/29(水) Aコース(笹原ブロック老人会 伊丹市)・岡田家(昆陽里幼稚園 伊丹市)・12/2(土) 岡田家(五百羅漢保存委員会 加西市)・12/6(水) 岡田家(吹田市西山田地区公民館 吹田市)・12/10(日) Aコース(13期環境自然コース 兵庫県)・1/14(日) Aコース(明昭山の会 西宮市)・1/23(火) A,Dコース(堺観光ボランティア協会 堺市)・1/27(土) Eコース(伊丹市子供会連絡協議会 伊丹市)

歴史ロマン体験学習支援

・11/18(土) 古代の首飾り・12/2(土) 印鑑
・1/20(土) 羽子板

有岡城の清掃

・11/25(土) 一斉清掃・12/26(火)・1/23(火)

今後の予定(2月～4月)

定例会

・2/13(火)・3/13(火)・4/10(火)

案内ガイド ・2/23(金) 岡田家(高齢者大学校23期アウトドアの会 大阪府)・Aコース、交流会(宝塚観光ガイド 宝塚市)・4/19(木) Aコース(平和堂旅行センター 尼崎市)・5/10(木) Aコース(平和堂旅行センター 尼崎市)

歴史ロマン体験学習支援

・2/3(土) 刀剣型キャンドル
・3/3(土) 粘土細工で和菓子

有岡城の清掃

・2/27(火)・3/27(火)・4/24(火)

文化財ボランティア養成講座

・1/23(火)「オリエンテーション」・1/30(火)「地の理から伊丹を考える」・2/6(火)「市内遺跡(縄文～奈良時代)」・2/13(火)「行基(1)～奈良時代」・2/20(火)「行基(2) 奈良時代～」・2/27(火) 史跡めぐり(準備)・3/13(火) 史跡めぐり(下見)・3/17(土) 史跡めぐり(本番)

編集後記

明けましておめでとうございます。昨年国内外共、いろいろと荒れ気味の年でした。今年は平穏な年であって欲しいと願っています。

(M.Y)